



# ゆんたく 2013 Vol.18 都島

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

特集1. 都島児童センター 仮設園舎奮闘記

特集2. 私たちの園を紹介します 一都島友渕保育園一

report 都島友の会 法人内研修

子育てアドバイス② 食育の取り組み

児童発達支援センターこども園から②/ひまわりの郷一定礎板から

/ひまわりネット連載コラム②

巻末連載一ぶらり都島② 音楽家 貴志康一

社会福祉法人 都島友の会



子どもたちへの愛をカタチに一。

# 新しい都島児童センターについてのご報告

—前号からの続きです—

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

6月初め、プレハブの仮園舎に引越し。子どもたちはどこに引越してもびのび、屈託なく遊んでくれます。「理事長先生、新しい保育園ありがとう！」ア、どうでしょう、もつともつと新しい大きな園が出来るまで、ここでゴメンネ、と心であやまりながらも、子どもたちの笑顔にすぐわれます。仮園舎の近くには遊びなれた都島公園、広く、からだ一杯動かし遊べるのが何よりです。仮園舎には、お花も金魚もうさぎも連れていきました。暑い暑い夏には、屋根の上にゴムホースで造ったスプリングシャワー、メッシュの布で日よけ対策など、先生たちの知恵の出し合いで「町の巨匠」さながらの工夫がなされています。(児童センターのホームページに生活風景を掲載しております)

園舎の解体時、旧園舎にはたくさんのお別れメッセージが書かれてありました。「ありがとう……」「あそこに土だんごかくしたのにお花がおったヨ」「お花はどうなるの……」「石の下に丸虫が……」「こびとさんたちは……？」子どもたちのいろんな声が聞こえてきます。

そして平成24年9月27日(晴)午前10時30分、地鎮祭が執り行われました。9月末といえども熱中症対策の中、新築工事の無事完成を祈っての儀式に年長組さんが参加しました。修祓の儀、四方祓の儀、齋鎌の儀、齋鋤の儀、玉串奉奠が行われ、子どもたちにとって初めての体験、神妙な面持ちで神様にお祈りしました。その姿は工事関係者、その他出席者には身が引き締まる思いがしたことでしょう。(都島友の会ホームページに地鎮祭時の風景

を掲載しております)

大きな行事の運動会、発表会、修了式などは都島小学校講堂をお借りできました。あと6ヶ月、仮園舎での生活が続きますが、8月中旬には新園舎に帰れます。年中、年少、乳児さんたち、もう少し待って下さいね。

さて、新園舎の紹介は前号(ゆんたく17号)で一部しましたので、今回はその続きをいたしましょう。

正面玄関を入りました。正面には集合形(200名)のシューズ収納庫、ショールーム、2階への階段と続いていきますが、1階右側西に向かうと北面にはおしめ交換台、その上にはお知らせボード、南には保護者談話コーナー、その隣はピアノ教室(2室)です。その奥に行くとも南側に出来るテラス、さらには前号でもご紹介した早朝・延長保育、地域開放のできる夢広場、ネバーランド(仮称)と、まさに夢いっぱい遊びがいっぱい詰まっています。(乳児と幼児、それぞれ別々になっています)

西側管理棟1階には、調理室、下拵え室、食品庫と廊下、エレベーター、2階3階への階段、男女の職員更衣室とシャワールーム、本部玄関ホール、ミニ応接ホール、多目的トイレがあり、廊下からネバーランドへと続いています。

建物の外側、信号の近くに駐車場(3台分)を設け、その壁面には都島友の会の3〜5歳児と職員で焼き上げた陶板1,000枚が張り付けられます。さらには沖繩の子どもたちの100枚の面ソーサーが魔除をしてくれます。道路より3m内には自転車置き場を造り、登降時の子どもたちの安全を考え、正面玄関に

## 門脇光也先生をお招きして、沖縄で職員研修会をいたしました。

2月、沖縄・渡保保育園で、門脇光也先生をお招きして、「日本の社会福祉の変遷と比嘉正子の社会事業」と題して職員研修を行いました。日本の社会福祉の歴史の流れから、当法人の歴史や創設者比嘉正子の像を描いていただいた貴重なお話を伺えました。



職員の間も真剣なまなざしです。



門脇先生、伊禮園長と共に。

はパネルタッチで登降園をチェックできる登園管理システムを設置しました。

玄関を入って東側は(前号)で紹介したように広い運動場、遊びまわる子どもたちの大きな声が聞こえてきそうです。

正面玄関から2階に上がると、東側には日光がさんさんと輝く暖かい0歳児、1歳児の保育室があります。周りにはバルコニーもあり風通しも良好、調乳室、淋浴室、乳児用トイレ、成長に合わせた設備が配置されます。

0歳児室のたみコーナーは小上がり(60×70cm)を造り、下には収納庫を設け、おもちゃや生活用品が収納できるようにしました。小上がりに子どもたちが立つと保育士の視線もひとしくなつて顔を近づけての「語らい」です。保育士は立つても腰を掛けても同じ視線になることができ、また周囲を安全柵でめぐらせ安心して遊ばせることができます。

1歳児の西隣には2歳児室2室、3歳児室2室が続きます。それに沿って長い廊下が伸び、さらにトイレが2ヶ所、設けられています。

西側つきあたりは管理棟2階となつており、本部事務局、理事長室・役員室、都島友の会歴史資料室、法人全体会議室、ミニキッチン(配膳室)、エレベーターホール、大人用トイレ、階段等があります。

西側階段を上がり3階に行くと200名が食事できるランチルームです。可動間仕切りを2ヶ所設け、3部屋に仕切ることもできるなど多目的に使えます。西バルコニーは水耕栽培ができるようにしました。イチゴ・トマト・キュウリなどを栽培、食育にいつそう力を入れたいと思っています(たわに実ると嬉し

いですね。

ランチルームから廊下で東に進むと4歳児室2室と開放型の図書コーナーです。子どもたちが寝転んでも座っても読める自由な一角です。南側には子どもたちのトイレコーナーがあります(広いです)。階段は2階1階へと降りていきますが、東側のつきあたりには5歳児室2室とバルコニーが(北面・東面)あり、風通しが良く、採光、外気が充分に入る抜群の環境です。廊下が南側をまっすぐに通る、広く伸びやかな空間で、子どもたちがどんな遊びを展開してくれるか、今からとても楽しみです。

今度は階段を上がり4階に行くと、そこは広い屋上です。屋上での遊びといえばプールですが、大人の夢(?)も入れ、タイタニック号をイメージしたプールをつくりました。プールには直射日光のことも考え、メッシュ風の帆をなびかせてみようと思っています。日射し一杯の屋上での遊び、今にも子どもたちの歓声が聞こえてきそうです。さらには旧園舎の屋根の上にあった太陽の塔も戻ってきます。(大切に保存していたのです)

西側のつきあたりは、大遊戯室(大ホール)になります。今まで以上に広い舞台、音響設備、照明も力が入っています。完成のあかつきには発表会や入園を祝う会、修了式、親子ふれあいの場、雨の日の広場……、ここで行う様々なイベント、催しは盛り沢山、出来上がりが本当に楽しみです。

毎月の打ち合わせ会である建築委員会は、とても楽しく力が入っています。安全、安心の保育室とは?、セキュリティ対策は?、IT

関連から事務所内の諸々の効率的な配置、子どもたちのロッカーの大きさから保育室の扉のデザイン、トイレの高さや、手洗い・シャワー・図書コーナーのデザイン、フローリングの色、壁の色、物入れ等々、まだまだ細かい打ち合わせが続く、一つ一つが決まってくると、い、すぐにも現物が見たく、完成が待ち遠しいですが、もう少し時間がかかりそうです。ひとまず今回は3月1日付、現状の写真を載せておきます。

現実はこちらから、まだまだです。続きは次回とします。



都島児童センター建築現場(西側)



(東側)



# 都島児童センター 仮設園舎奮闘記

都島児童センター 酒井 千恵

新園舎建替え工事に伴い、仮設園舎での生活が始まりました。仮設とはいえ、クラスごとに部屋は仕切られ、給食室(厨房)も完備しています。駐車場の跡地に建てられたプレハブ造りの園舎ですが、完成した時には子どもたちと一緒に喜びました。『平屋建てのコの字型』向かい側のクラスの様子も見ることができ、裸足でもすぐに飛び出していける芝生の園庭。子どもたちにとっては風変わりな新園舎!? 「新しい保育園を建ててくれてありがとうー」とお気に入りの様子。しかし生活をしていくと、いろいろと困りごとは起こるものです。でもそこは職員たちの暮らしの知恵と保護者や近隣の皆さまからの「こえ」を頼りに改良改善…。そして何より、子どもたちの『生きる力』も『考え行動する力』もグングン育っています。

同時に、園舎の解体工事も始まりました。思い出深い園舎が少しずつ形を失っていく様子を寂しい気持ちで見つめながら、新園舎の完成にも期待するという複雑な心境…。現在は地鎮祭も終え、着実に新園舎の工事が進んでいます。

新園舎完成までの、限られた仮設園舎での生活…だからこそできる「保育」、生まれる「感情」、そして「ひとの温かさ」に触れながら、1日を大切に日々過ごしています。

屋根に手作りスプリンクラー  
屋根にホースを這わせ、一つずつ穴をあける。この刺す向きと、深さがキレイに散水させるポイント!!

## 暑すぎるっ!!

プレハブの屋根に蓄積された熱が室内にこもり、業務用の大型扇風機も併用し、エアコンはフル回転。子どもたちの熱気もムンムンで暑い暑い夏でした。

## 夏



夏はメッシュシート、すだれでダブル遮光!

氷柱のプレゼント  
「暑いでしょう」と氷柱のプレゼントを頂きました。「気持ちいい〜」の子どもたちの笑顔に、氷は冷たいけれど心はほっこり温まりました。

階段は、リレー方式。職員チームワークの見せどころ



## 6月

都島児童センターから、仮設園舎へお引っ越し。慣れ親しんだ園舎ともお別れです。

たくさんの荷物・おもちゃ…運んでも運んでも、まだあるでえ〜(ぶっ〜)分かってたけど、大変



仮設園舎での安全を祈願しました。



### 完成!!



仮設園舎内



駐車場のアスファルトを掘り起こしました。

仮設園舎が出来るまで…  
(4月〜5月末)



冬は、さらに防風シートを一枠ずつ、職員が取り付けました。これが意外と大変!

## 冬

## 厳しい寒さ…

仮設園舎を吹き抜ける風は、それほかに冷たいもの!!  
でも寒さは動けばなんとかなる!  
『子どもは風の子 元気な子』



寒空でも、門に飾られたイルミネーションを見上げるとキラキラの笑顔にわかります。

### 新園舎工事説明 (職員見学)



## 地鎮祭 平成 24年 9月 27日

暑さは残るものの、秋晴れの中、建築などの工事を始める前に、その土地の神を鎮め、土地を利用させてもらうことの許しを得る儀式「地鎮祭」を行い、年長児も参加しました。いにしえより続く神事も、子どもたちには珍しい儀式だったようです。少しの緊張の中にも、理事長先生に倣って玉串奉奠を体験しました。





園の行事に保護者も参加



1月10日、親子や保護者同士の交流の場にと、「餅つき」と「ふるまいぜんざい」を行いました。「餅つき」ではお父さんに手伝ってもらい、「よいしょ、よいしょ」と大きな掛け声でお父さんを応援する子どもたち。5歳児は実際に杵をもつて餅つきを楽しみました。

「ふるまいぜんざい」ではお迎えの時間に温かいぜんざいを食べながら会話も弾み、親子や職員たちとの交流の場となり、子どもや保護者の方々にも喜んでもらえることができました。都島友渕保育園では今後も親子で気軽に参加でき、食育にもつながるイベントをたくさん企画していきたいと思えます。

都島友渕保育園 細江那奈



餅つき



ふるまいぜんざい

地域交流

都島友渕乳児保育センター・都島友渕保育園分園交流会

自分よりも小さな子どもたちを目の前にすると、年下の兄弟がいなくて少し戸惑い気味・・・一緒に遊んでみたいけれどどうやって遊んだらいいのかと立ち尽くしてしまうことも。でも小さなお友だちがヨチヨチと近くにくと「はい！」とおもちゃを渡したり、一緒にブロックを組み立てて遊んだり慣れていきます。帰る頃には「小さなお友だちには優しくしないとダメやねんで！」と言ったり、交流を繰り返すことで一歩ずつお兄さん、お姉さんに成長していく子どもたちです。

デイサービス交流会

「今日デイ行くの？」とデイサービスに行くことをとても楽しみにしている子どもたち。



デイサービスでの交流では保育園でしていることを披露したり、利用者の方と一緒に楽しい時間を過ごします。時には利用者の方が歌や得意技を披露してくれることもあります。折り紙やあやとりは、おじいちゃんおばあちゃんが得意！教えてもらい「難しいなー」と言いながら、子どもたちが折り紙を折ってプレゼントするとおじいちゃんおばあちゃんはとても喜んでくれます。その笑顔を見て子どもたちもとても嬉しそう・・・「またくるねー」の声に「楽しみに待っていますよー」と元気な声が返ってきます。

都島友渕保育園 久住和歌子



もっと元気にすこやかに

～新しくなった都島友渕保育園～

昭和58年に開設した都島友渕保育園。開設から30年の時がたつとさすがに建物の老朽化も進み、昨年8月に園舎を半解体して新築、既存部分も全面改修することになりました。友渕町の人口増加や園舎を強化するための工事は必須だったのですが、皆様の協力のもと12月末に無事完成、5か月の仮生活を終え新しい園舎に帰ってくることができました。

仮設生活は、3～5歳児が都島区内の御幸町のマンション・1階フロアーと2階の2部屋、0～2歳児は都島友渕乳児分園で過ごしました。御幸町のマンション1階はとても大きなフロアーで2学年4クラスと事務所が同じスペース。ロッカーで仕切られているとはいえワンフロアー全体が見渡せるので、まるでみんながみんなで保育するといった和気あいあいの雰囲気でした。事務所の電話は相手の声が聞き取れないほどいつも子どもたちの声でぎわっていました。子どもたちがロッカーの上におもちゃを載せておもちゃギャラリにしたり、かくれんぼの場所になったり・・・この時にしかできない貴重な体験ができたと思います。

あつという間に5か月が経ち、12月25日、世間はクリスマス一色の中、職員は久しぶりに戻ってきた我が家(保育園)に子どもたちを受け入れる、とても緊張した一日を迎えました。「いつものように笑顔で入ってきてくれるかな?」不安をよそに、「おはようー保育園、きれいなつたな」の返事。子どもたちの笑顔が新しくなった都島友渕保育園に戻ってきました。

新築部分は年長クラスの保育室兼こどもホール、プールが設置できる広い屋上、改修部分では廊下だったところがサンルームに変身、絵本サロン等、子どもの憩いの場となっています。例年、1月初旬に都島児童センターホールでおこなわれる法人職員の互礼会が今年も都島友渕保育園のホールであり、約120名の法人職員が、新しくなった都島友渕保育園のお披露目を兼ね出席しました。

これから子どもたちと共に、より美しく強化された園舎の中で安全・安心の環境のもと、子どもたちの発達と健やかな育成のために日々奮闘していきたいと思えます。

都島友渕保育園 吉本 希

文字活動

幼児クラスになると文字活動という取り組みを行っています。3歳児クラスで線をなぞることから始め、4歳児になると簡単なひらがなが書けるようになります。5歳児では全てのひらがなが一通り書けるようになって5歳の終わりに自分の名前が書けるようになります。ペンの持ち方、書き順なども丁寧に教えています。文字活動を通して子どもたちは文字に興味を持ち、自分たちで絵本を読めるようになり、らくがき帳には覚えた文字が誇らしげに踊っています。

音楽活動



音楽活動にも積極的です。3歳児では打楽器に触れ、4歳児ではピアノを中心に音楽活動を行います。

5歳児になると運動会のマーチングに向け、太鼓の取り組みを行います。月に一度音楽専門の先生が行う音楽リズムという時間があり、そこで難しいリズム打ちも楽しく分りやすく取り組むことができます。子どもたちの音楽活動は2月に行われる発表会や運動会のマーチングでその成果が思う存分発揮されます。



# 絵本について

## 都島桜宮保育園

都島桜宮保育園 李 美和



「はじめてのおつかい」より  
福音館書店/筒井頼子・作 林 明子・絵

右：表紙の絵はお母さんに向けた「買ってこれたよ」の満面の笑顔だったのです。

左：頼まれた牛乳を手を走るみいちゃん。坂の下ではお母さんが手を振って待っています。

みなさんは絵本を手にとる時、どのように選んでいますか？「子どもの年齢に合わせて」「自分が子どもの頃に好きだったもの」etc. 選ぶ基準は様々だと思います。私たち都島桜宮保育園は昨年度、絵本研究家の先生をお招きして開催された保護者会主催の子育て講演会「絵本を楽しもう」に、保護者の方とともに参加させていただき、それをきっかけに、絵本の楽しさ、奥深さを再発見しました。その中身をほんの少し紹介させていただきます。

### 子どもは絵の奥深さを知っている!?

子どもが絵本をめくりながら、行ったり来たりするのは何故なんだろう、と思ったことはありませんか？子どもたちの様子をじっくり観察してください。実は子どもは自分の発見を確認しているのです。私たちが見過ごしてしまっている小さな絵も、子どもたちは大きな発見としてワクワク楽しんでいるのです。たまには字を読まず、絵について会話を楽しんでみるのもいいですね。

### 絵本は年齢に合わせて？

「赤ちゃん絵本」「幼児向け絵本」と年齢ごとに分けられているのを目にするのがあります。赤ちゃん絵本は赤ちゃん限定？いえいえ、よく見てみると、絵の中には作者のあそび心がいっぱい盛り込まれていることも…。年齢を問わず幼児でも大人でも新しい発見を楽しめます。



左：表紙にはおいしいそうないちごが…

右：1 ページ目には女の子が右手は「イチ」左手は「ゴ」合わせて「イチゴ」足して「6」表紙にあるイチゴの数は…

「いちごです」より  
文化出版局/川端 誠・作

広場よみ：指さしてできる距離感で感動や発見を共有。楽しさも倍増です。

### 広場よみでスキンシップ

都島桜宮保育園では絵本広場を作り、広場よみを定期的に取り入れています。選んだ絵本を一人で読んだり、友だちと一緒に見たり、少人数で輪になり見合ったり。より近い距離で発見を共有できる、ゆっくり絵本を楽しむことができます。広場よみ。子どもと一緒に色んな発見を楽しんでいます。



絵本広場：表紙が見えるように置くことで、字が読めない年齢の子も絵を見て一目で選ぶ事ができます。

# Report

## 都島友の会 法人内研修

### 法人内研修って？

都島友の会では保育の質の向上を図るため、定期的に法人内研修を行っています。研修では日々の保育にすぐ実践できる内容を主に、各園が日頃の取り組みを順次発表しています。

発表を行うに当たっては各園がそれぞれ内容をまとめ、幾度となく話し合うことで職員間のコミュニケーションや共通理解を深め、各園独自の保育や特徴などを改めて確認できる機会となっています。

今回は、都島東保育園・都島桜宮保育園が法人研修で発表した内容をご紹介します。

壁のぼりとは都島東保育園の運動会名物種目で年長児が180cmの壁を登ることで。平成4年度から始まり、職員間で試行錯誤しながら現在まで受け継がれてきました。

今年度(平成24年度)行われた法人内研修では、この壁のぼりをテーマにもう一度取り組み方を見つめ直し、今までにはない新しい練習にも取り組みました。

# 運動会名物 壁のぼり

## 都島東保育園

都島東保育園 沖野 有希



- 1 壁のぼりの準備**
  - 自分の背丈より高い『壁』に全身を使って登り、飛び降りる達成感を味わう。
  - 腕や足などに持久力をつけ、手と足、または全身の協応性を高める。
  - 運動会のねらいである「幼い時から行ってきた保育の連続性を大切にし、無理をさせない」「力をださざる」ことにつながる。ことから運動会の恒例種目となっている。
- 2 競技方法**
  - 離れたところから走り、踏み切り板で跳躍の反動をつけ戸板に跳びつき、身体全体を使ってよじ登る。頂上で身体のパラソルを整えて飛び降りる。
- 3 壁のぼりの取り組み、指導内容**
  - 180センチメートルの壁に登るために、乳児の頃から段階を踏んだ取り組みを行っています。



3歳児→壁を横にねかせて60cmの壁を登る



0歳児→畳をベッドに立てかけて登る



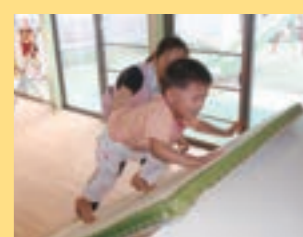
4歳児→壁を縦にねかせて90cmの壁を登る



1歳児→畳をおしめ台に立てかけて登る



5歳児→高さ180cmの壁を登る



2歳児→畳をロッカーに立てかけて登る

- 4 壁のぼりから育つもの**
  - 体力面：腕の力。「壁の取っ手をつかんで引き上げる力」鉄棒を引き付ける力につながる。
  - 腕の力がついたことで逆上がりができる子どもが増える。
  - 精神面：最後まであきらめない気持ち。できたときの達成感・自信。
  - 共に応援したり、励ましあつて協力しようとする気持ち。
  - 友だちができたときの嬉しさの共有。

乳児は畳を使って登ることを遊びの中に入れていきます。また畳を登ることだけでなく、園の階段を上がったり、散歩で足腰を鍛えるようにしています。

今回は、私たちが講演会で感じた絵本の楽しさや、発見したことに思わずニコッとする感覚をみなさんにお届けできたらと思ひ、絵本をテーマとして取り上げてみました。メッセージとして伝えたい絵本・絵やことばを楽しむ絵本、どちらにも素敵な要素があります。そのことを知りどんな場面でどんな絵本を読むかを考えるのもまた楽しい時間となりました。

絵本は子どもと大人をつなぐコミュニケーション。ひざに座って一緒に絵を読むことで共に笑い、驚き、感動し…“心のスキンシップ”と“体のスキンシップ”2つの要素をぜひ一緒に楽しんでみてください。



『壁のぼり』という種目で子どもたちは様々な成長の様子を見せてくれます。運動会当日、最初はまったく登れなかった子どもたちが堂々と壁を登りきる姿や本番の緊張から逆に登れなくなってしまふ子、それでも最後まであきらめない姿に、職員はもちろん、保護者、そして子どもたち自身も感動します。登れるということだけを目標にするのではなく、個人差を考慮し、手助けを

しながら、子どもたちがあきらめずに頑張る姿を認めていくようにしています。この研修を通して改めて『壁のぼり』の魅力を発見することもできました。『子どもたちがこの経験を通し少しでも何か感じて欲しい。』と願いながら、先輩方から受け継いできた壁のぼりを、この先も東保育園運動会名物として残していきたいと思ひます。



―食育の取り組み―

みんなでいっせいがぶり!!



さんまの串焼き

畑がなくなっても土嚢で  
りっぱな大根ができましたよ。  
2人でよいしょ!



大まいチンゲンサイ  
Get!



ピーマンを収穫。  
じゃニピー  
おにぎりの具に



# 食べるってたのしい!

野菜の栽培



屋上で育てたまつま芋。  
うんとニどっニいしょ



お弁当おかわり!!



ランチBOX



気分は遠足イェイ!!



水耕栽培で  
トマトも  
育てています



都島友の会では、食を楽しむことをテーマに様々な取り組みをしています。子どもたちと屋上や園庭で野菜や果物を栽培しているのもその一つです。各園、育てているものは違いますが、毎日水やりをすることで葉の大きさや色の変化に気づいたり、花が咲き大きく実っていく様子を喜んだり、反対に育たず枯れてしまっただけだったり、いろんな経験をしながらの収穫となるのですから喜びもひとしお。自分たちで育てたという思いがあるからこそ、食べるのも何とも言えないおいしさ、苦手なものだつて食べてみようと思うようです。

手軽さや安全面から切り身魚や、骨を取り除いた魚が多く出回っている今日この頃ですが、魚を捌くさまを見学したり、丸々1匹のさんまを串に刺し炭火で焼く『さんま焼き』の行事に取り組み園もあります。さんまが炭火でおいしそうに焼かれると「いい匂いやなあ」「おいしそう!」「目がギョロっとしてる」など様々な感想とともに、一人1匹、さんまをガブリ。見て触れて嗅いで・・・、食材の元の形や調理する様子を見ることで、食に対するさらなる興味も湧いて、「食」を五感すべてで感じとる子ども達です。

「ランチボックスday」と名付けて、家庭からお弁当箱だけを持ってきてもらい、その中に給食をつめて食べるイベントも行っています。保育室にレジャーシートを敷いてお花見気分!?、屋上に上がり青空のもとでのミニ遠足・・・。場所や気分を変えることで、いつもの給食が素敵なランチに大変身、苦手な野菜も環境が変われば率先して食べるようになったと聞いています。

ちょっとしたスペシャルが子どもたちにとつての「楽しい」になり、食べることに繋がっていきまます。小さな工夫から、大きな笑顔がたくさん生まれるといいですね。

編集／都島第一乳児保育センター 西田直未





## ひまわりの郷



## 定礎板から

ひまわりの郷 海老子隆一

# 2002.4

ひまわりの郷が開設して10年が経ちました。定礎板の箱のように、しまつていた当時の思い出をもう一度思い出し、ひまわりの郷の原点を振り返ってみたいと思います。

特養ひまわりの郷の玄関の右側に「定礎板」があります。一般に定礎板には竣工の年月日が記され、さらにその中に箱があつて、建築図面や名簿などの中身をいれてあります。ひまわりの郷の定礎には、次のように記されています。

### 開設の頃

ひとつの施設がオープンするというのは本当に大変なことです。私たちも毎日がただ忙しく、忙しすぎて何をしようかわからないような日々が続いていました。建物の竣工、設備の取説、物品の搬入、新採用職員の受け入れ、入居の手続きなど、今となればまたとない経験だったともいえるかもしれません。理事長から幾度となく聞いた話があります。職員の間で「何人かみえるスリムになつていった」という話です。本人には自覚がないのですが、多忙なため、職員が日を追うことに疲れていったことなのです。介護の現場も大変だったと思います。どのように介護すべきか。入居者に毎日をどのように過ごしてもらおうべきか。あちこち講演を聞きに行ったり、机上の理論は頭にあつても、まさに手さぐりではなかつたかと思えます。

そんな中、ひとつの事件がありました。今となつては考えられないことですが、入居者の一人が施設からいなくなり、行方不明になつたのです。ご家族も心配される中、夜も明けて一報が入りました。他府県にある、行方不明となつたその方のご実家からの電話でした。「私の結婚式、嫁入りがあるから帰ってきた」とその方はおっしゃつたそうです。記憶の中で、新しい記憶が消え、何十年も前の青春の美しい「コマ」が蘇つたということでしょう。大騒動ながら、ふと心がなごむとてもロマンあふれるできごとでした。

### 慣れると「いいこと」

ご入居いただいてすぐの頃、感情が不安定になる方がいらつっしゃいます。怒ったり、どなつたり、時には暴力を

ふるう方もいらつっしゃいます。ある方は入居まもない頃、ご入居いただいているフロアー自体がその方の職場であり、職員もそこで同僚として働いていると思込んでおられました。だから職員を怒るので、職場でふさわしくない行動をとつたということなのでしょう。そして、夕方になると、「帰らない」となるわけです。しかしその方も次第に慣れて気持ちも安定し、新しい環境として楽しく過ごせていただけるようになりました。やはり環境に慣れないことが大きな原因だったようです。私たちは決して性急にはならず、画一的な対応をするのではなく、入居者お一人おひとりの個性やペースに沿つて慣れていただくこと、そして接していくことの大切さをその時よく学ばせていただいたように思います。

最後に「奥野婦長」のお話を。ひまわりの郷の開設備以来、ずっとお世話になつてきた奥野看護師(皆さん、いつからか「婦長さん」と呼ぶようになっていました)が、今春退職されることになりました。一年365日、夜勤の者から急変を伝える深夜の電話にも一切苦言なく、親切に対応していただきました。あらゆる入居者のケアについても丁寧にご指導いただきました。ひまわりの郷を支え続けていただき、介護スタッフ全員のお母さんのようでもありました。そして、長い間ご苦労さまでした。そしてありがとうございました。



## ちょっと気になる子

子どもの成長は日々目をみはります。特に赤ちゃんが生まれてから1歳ごろまでは、一日一日で心身ともに大きな変化があります。この時期、赤ちゃんは音や光などの刺激を受けとめながら、人として育っていく土台をつくっています。土台がしっかりしていると、受け身で自分から外の世界に働きかけていくようになります。そんななかで、そばで見守っているお父さんもお母さんも、さまざまな変化に嬉しくなったり不安になったりされるのではないのでしょうか。お母さんや保育園の先生から、0・1歳代の子どものついて、次のようなことが「ちょっと気になる」「なぜ?」と聞かれます。

**Q**

子どもがもうすぐ8か月になります。毎晩のように夜泣きをしますが、どうしてでしょうか?

**A**

赤ちゃんは音や光の刺激を受けながら、1歳ごろまでに大まかな睡眠リズムを身につけていきます。それまでは、理由が分からない夜泣きも見られます。睡眠リズムを身につけるために、生活リズムは整っているでしょうか。たいていの夜泣きは成長とも頻度や強さが減っていきますが、中には音や光などの刺激に過敏なタイプのお子さんもおられます。リズムがしっかり定着するまでは、「寝る前は静かに過ごす」「照明をできるだけ落とす」など眠りの環境を整えるのも大切なことです。

**Q**

一人で遊んでいます。大人しくて、手がかりませんが、それでよいのでしょうか?

**A**

1歳ごろになってくると外の世界に自分から働きかけ、身体的にも精神的にも色々なことを身に付けていきます。自分の発見や喜びを大人と共有する大切な時期ですが、一人でじっくりと外の世界と向かい合うこともこの時期の子どもにとっては大事なことです。子どもによっては、大人とどのように共有したらいいのかかわからず一人で遊んでいるお子さんもおられます。お子さんが楽しいと思っていることに、大人が寄り添っていきながら一緒に楽しむ経験を積んでいけるとよいですね。

生活リズムの見直しや大人の関わり方を考えるなどしたもの、なかなか変化がみられずお父さん・お母さんの疲れはたま一方...。そんな時は、周囲の人の助けや一時保育などを考えましょう。幼児期まで続くようであれば、地域の保健師さんやかかりつけ医、専門機関への相談を受けてみましょう。

都島こども園 心理士 長谷倫子



## 保育所等訪問支援事業ってなあに?

都島こども園では保育所等訪問事業、通所事業、相談支援事業の3つの事業をしていますが、今回は保育所等訪問事業について紹介したいと思います。

### 保育所等訪問事業とは

児童が楽しい園生活・学校生活を送る事ができるよう、障がい児支援に関する専門的知識・技術を有するスタッフが訪問し、個々の発達の特性に配慮する点など、保護者及び担当の先生に対してアドバイスを行います。

**対象となる児童は:** 保育所や集団生活を営む施設に通う障がい児(手帳の有無は問いません)

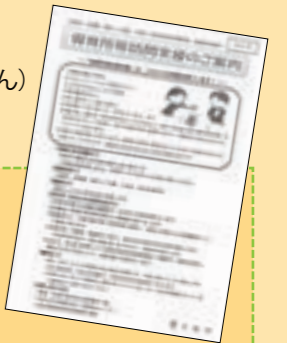
**訪問先は:** 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校

### 利用の流れ

1. 利用を希望する児童の保護者が、区役所に利用申請をします。
2. 区役所が保護者に保育所等訪問支援を行う事業所の紹介をします。
3. 保護者が選んだ事業所に区役所から連絡が入り、事業所から保護者に連絡をします。
4. 事業所から、対象児童が通う保育所等の施設へ、事前に訪問の日程調整などについて連絡があります。
5. 保育所等・保護者・事業者の三者で、具体的な支援内容を検討します。

**費用** 1回につき、1,000円程度の自己負担が必要です。 \*世帯の収入に応じて上限額が設けられています。 保育所等までの交通費は負担していただきます。

※お問い合わせは在園されている保育所等、または都島こども園に直接電話をいただいても構いません。







### 東日本大震災の3月11日を忘れないために！ 社会福祉法人 都島友の会は、毎月1日に 「11(いい)ね！物産展」を開催し、 東北を支援しています！



平成24年3月11日の都島区社会福祉協議会主催の東北支援ボランティアに参加したことを契機に、遠く離れた大阪からでも小さな応援が、明日への希望や勇気につながるのではと5月より大阪の都島地域から東日本の物産を中心に販売することで、東日本を応援しています。

最近では「東北の地震は他人事やないよね」と、わざわざ来てくださる地域の方も増え、そして何より1回目から手伝ってくれている「子どもの家」の小学生の意識の変化です。初めの頃「やらされている」という感じから、声も小さく気だるそうに呼びかけていました。が、次第に表情や声に「東北を自分達も応援しているんだ！」と自信のようなものを感じられるようになってきました。本場に地域や各施設などたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

5月	5,765円
6月	27,730円
7月	14,236円
9月	5,643円
10月	7,593円
12月	4,987円
1月	9,299円
3月	28,620円
合計	103,873円

収益金を平成24年度分の義損金として、仙台市七ヶ浜社会福祉協議会に寄付させていただきます。



HIMAWARI.NET 連載こらむ  
ネットのきもち 2

今年の冬は、ことのほか寒い。東北や北陸からは大雪の知らせが毎日のように届いた。  
ひまわりネット(都島第二乳児保育センター)の前には、暑い日も寒風、く日も雨の日も毎日朝夕、登降園の安全を守っているオッチャンがいる。

行きかう自動車から園児や保護者を守っている。初めて出会ったとき「ちよつと「ワイ?」「大きい声やな」と・・・  
ところが、2歳児の子どもが「オッチャン バイバイ、オッチャンは握手して」気つけて帰るや」と大きな声で言う。自動車が近づくと大きな声で「車やぞ」と保護者に注意を促す。言葉は少ないけれど「こそ」という時のストッパーになって見守っている。  
わが子が小さかった時、近所のおばあちゃんが「また、泣いてるん?どないしたん?」と声をかけられた。正直「放つて」と思っただことも何度かあった。今にしてみれば、母親と呼ばれるには恥ずかしいくらい余裕もなく「子育てって、こうしなくてはいけない。」ことに縛られていた。特に一人目の子どもには気を張り、子どもの寝顔を見ては日々反省していたものである。

幸い近所のおばあちゃんはその私を見捨てず、時々頻繁にお世話していただいた。その一年後に息子さんの転勤で引越され、しばらく年賀状をやりとりしていたがいつしか途切れてしまった。そのおばあちゃんの漬けた奈良漬の美味しかったことは、今も懐かしく鮮明にあの当時から思い出される。  
たくさんの人に出会い、泣いたり笑ったり・・・人は人の中でみんなと生活している。お互いさまというが、断然助けてもらったことのほうが多いかもしれない。

物事ちょっとした見方で気持ちが「ホッと」楽になったり、悩んでいたことがばかしくなったりするのも年齢かもしれないが、たくさんのお付き合いで「ラクチン」になったように思う。

溜息をつかないで/陽射しやそよ風はえこひいきしない  
(101歳の詩人 故柴田トヨさんの詩)

さあ、おひさんも輝いて暖かくなってきた！  
オッチャン、子どもらの安全たのんまっせ！  
笑ったオッチャンの顔、ステキやよ！

(ひまわりネット相談員 岡本和江)

◆平成25年1月12日(土)(財)比嘉正子記念会館

### テーマ 「北市民館保育組合と 志賀志那人の思想」



ー比嘉正子 活動の原点ー

西野 孝氏

当法人の創設者比嘉正子の人生を決定づけた大阪市立北市民館と志賀志那人についての講演をしていただきました。北市民館とは大正10年に天六・長柄界隈に住む人たちの生活向上をはかる総合施設として大阪府が建設し、志賀志那人は初代館長となった方です。

北市民館及び志賀志那人が行った活動とは、それまでの上から下への施しといった従来型の福祉ではなく、日本初の公立セツルメントとして地域住民が誰もが同じ権利をもって参加し、みんなの意見を尊重しながら自ら自身で立ち上がっていく、協同というそれまでの福祉活動にはなかった考え方の実践の場であり、その活動は全国から大きな注目を集めたということです。比嘉正子は北市民館の新しい社会事業の魅力にひかれ、保育組合の保母として就職し、その後、恩師である志賀氏の思想や志を引き継ぎ、青空保育園を設立。以来、今日の都島友の会へとつながっていくのですが、その生涯においていかに北市民館や志賀志那人の存在が大きかったかということを知り、今ではもう北市民館のことを語り継がれる方が少ない中、貴重なお話を伺って本当に有意義な時間を過ごすことができました。



### 中堅・管理職のために2つの研修が行われました。 本部 木下真弓

◆平成24年11月7日(水)  
(財)比嘉正子記念会館

### テーマ「権利と義務より 労務管理の基本を考える」

株式会社日本人材研究所

代表取締役社長 末村 誠規氏



職員は「まじめにしっかりと働く」義務があり、法人は「まじめにしっかりと働かない」を放置しないこと。それには要望をはっきり明確に伝え、言葉にした上で評価することが大切である。それらをまとめるには、職場として1つの方向に向いているかという『職場の共通認識』を作ること、リーダーが『職場の当たり前』あるべき姿をわざわざ言葉にして伝え、話し合い『納得』をつくることをしないと人は動かないというお話をいただきました。働くことの権利と義務を共通認識し理解できるように言葉にしていくことが大事だと改めて思わされた研修でした。



### 今号の表紙



都島友洲保育園 5歳児 安永 太伍くんの作品

### 夏休みの印象画

「絵の具とクレパスのはじき画法」  
「お友だちとプールへ行ったよ！ペンギンの浮き輪で遊んで楽しかった！右端はスライダー。始めは怖かったけど二度すべるとたのしい！たくさんすべったよ！」

編集後記

この『ゆんたく』は、都島友の会の各施設の職員が編集委員となり作っています。法人の活動や紹介、役立つ内容を目指し試行錯誤し、ゆんたく(沖縄の方言で『おしゃべり』)しながら楽しくこれからも作っていききたいと思えます！

都島東保育園 瓜坂蓉子







写真提供 都島区役所



都島区役所で毎年開催される「貴志康一クラシックコンサート」

第2回

# 貴志康一

きし こういち

一都島から世界へ羽ばたいた天才音楽家一

取材・記者／都島児童館 守屋美智子

都島は、昭和の初期、世界を舞台に活躍した天才音楽家貴志康一とゆかりの深い土地柄です。

貴志康一は明治42年3月31日の生まれ。11歳頃からヴァイオリンを始め、昭和2年（1927）スイス国立ジュネーブ音楽院に留学、のちにドイツに渡って20世紀最大の指揮者といわれるフルトベングラーに作曲や指揮を学びました。その後二度渡欧し、昭和10年（1935）にはベルリン・フィルを指揮して自作曲を録音するなどの活動をしています。

昭和10年に帰国後、指揮者として活躍をはじめ将来を嘱望されていましたが、昭和12年（1937）11月17日、心臓麻痺により28歳で夭逝しました。

都島と康一とのつながりは、父方の祖父彌右衛門（やえもん）は代々式部卿を務めた家系で、後に大阪心齋橋筋で繊維問屋を営み成功をおさめましたが、当初大阪の肥後橋に住んでいました。1899年に現在の都島区綱島町に広い邸宅を構えました。当時の貴志邸は大邸宅で日本庭園と茶室があり、康一は幼少期を貴志邸で過ごしています。後年康一は「恋」という短い自伝小説を書きますが、その中で自らの初恋の思い出とともに、祖父母、両親、妹などと過ごした綱島の幼少期を懐かしく綴っています。

大阪市は1996年、康一が育った都島区綱島町に「貴志康一生誕の地」の史跡顕彰碑を建立すると共に、

1999年大阪の芸能の発展に貢献した功績をたたえ、「上方芸能人顕彰」を授与しています。また都島区役所は例年「貴志康一コンサート」を開催するなど、ふるさと都島が生んだ偉大な音楽家として、その名と業績をより多くの人々に伝える事業に取り組んでいます。

現在綱島町にある同地には貴志邸の遺構である茶室・松花堂が残っていますが一般公開はされていません。

貴志康一の代表曲には交響曲「仏陀」やヴァイオリン曲「竹取物語」などがあり、代表作やベルリンフィルとの共演はCDなどで聞くことができます。

また「竹取物語」は湯川秀樹のノーベル物理学賞受賞の晩餐会に流されたことで有名です。現在、これは都島区役所内のアナウンス時のメロディーに使われています。



都島区役所内で流されているメロディ「竹取物語」